

地球ひろば

とも 共につくる ぼくらの未来

協力: JICA (ジャイカ)
https://www.jica.go.jp/hiroba/

ブラジル②



- 国名 ブラジル連邦共和国
- 面積 851万2000平方キロメートル (日本の22.5倍、世界で5番目に大きい)
- 人口 約2億784万人 (2015年、世界銀行)
- 日系人総数推定 約190万人
- 時差 11~14時間 (日本が進んでいる)
- 政府開発援助重点協力分野 都市問題と環境・防災対策▽日本・ブラジル連携による中南米、アフリカ諸国への支援

たぐさの家の斜面に張り付くように建つファベラリオデヤネイロで



日本の防災 世界でも

防災プロジェクト JICA 長期専門家: 山越隆雄さん

私の仕事は、ブラジル政府が進める防災プロジェクトの支援です。日本では、土石流や土砂崩れなどの土砂災害対策の専門家として国土交通省で働いていました。2015年7月から、JICA防災専門家として、ブラジル都市省に派遣されています。日本の自然災害対策の考え方をブラジルの人々に理解してもらうことには苦戦していますが、お互いの考え方をいろいろと教え合ううちに、少しずつ日本の防災に対する考え方が理解されるようになっていくことを実感しています。



土砂災害に関する現地指導をするJICA専門家

急斜面のスラム街 ファベラ

ブラジルの都市部には、ファベラと呼ばれるスラム街が、都市周辺の山地、丘陵に分布しています。ファベラには経済的に貧しい人たちが住んでいて、壊れやすい住宅が無計画に密集しています。排水溝なども整っていないため、水が垂れ流しになって、雨のたびに土砂崩れが起き、多くの人が命を失っています。

備えることの大切さ

みなさんは、ハザードマップという言葉を知っていますか？ ハザードマップは自分の身の回りの危険な地域や場所を表した地図です。これをブラジルでも作り、どこが危険かをよく知ってもらい、危険なところに住まないようにしていく必要があります。雨が降って土砂崩れのおそれがあれば前



土砂災害に見舞われたファベラ

もって分かるような警報を出し、土砂崩れが起きても命を守れるように、あらかじめ備える必要があります。

日本で使われているハザードマップの作りかた、土砂崩れを予測する警報の出し方、いざという時への備え方など、防災に関する多くの経験や知識をブラジル政府に伝え、ブラジルの防災マニュアルを作る手伝いをするのが、私たちの活動です。

★山越さんに一問一答★

Q 一番苦労することは？

災害を防ぐ仕事には、地質、都市計画、土木工事、緊急対応など、さまざまな専門性を持った人々が関わっているため、プロジェクトを進める上でお互いの意見を調整するのに毎回ひと苦労します。毎週関係する人たちを集めて会議をしていますが、ブラジルは広い国なので、集まらない遠くにいる人たちはテレビ会議で参加しています。

Q 現地の人と分かり合うには？

日本の防災に対する考え方を理解してもらうために、日本の実情を見に行ってもらっています。日本に行ったブラジル人たちは、日本の防災の専門家たちとの友情を深め、考え方を深く理解し、ブラジルでの防災マニュアル作りの中心的な役割を担っています。



はじめよう SDGs

調べてみよう 考えてみよう



Q1 近年、どんな災害があったか調べてみよう。 ①あなたが住んでいる地域②日本③世界——で探してみよう

いつ	どこで	どんな災害	気がついたこと
2011年3月	東日本地域	地震、津波	地域によって被害状況が大きく異なっていた。
2015年4月	ネパール	地震	ネパールだけではなく、周りの国々も被害を受けた。

Q2 災害による被害を最小限にするため、どんな備えが必要だろうか。考えてみよう。

例: 自分の住んでいる地域の危険な場所を示した地図(ハザードマップ)を事前に確認しておく。

SDG 11では、災害にも負けない、住む人たちが

11 住み続けられるまちづくりを



より良いまちへ

自分たちのまちが、住む人みんなにとってより良くなるために、私たちはどんなことができるでしょう。

まされることなく、きれいな環境のまちをつくること——など。

自分たちのまちが、住む人みんなにとってより良くなるために、私たちはどんなことができるでしょう。

まされることなく、きれいな環境のまちをつくること——など。

自分たちのまちが、住む人みんなにとってより良くなるために、私たちはどんなことができるでしょう。

まされることなく、きれいな環境のまちをつくること——など。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

持続可能な開発目標 SDGs (Sustainable Development Goals)

2015年に国連の場で加盟国が決めた30年までの世界の目標です。